

# 新川千本桜



新川  
塩田道

## 新川

江戸川区指定史跡  
(昭和六十一年二月十二日指定)

江戸川から古川の流れを経て、三角で新川に入り、西の中川に至る流路は、かつて船堀川と呼ばれていた。

船堀川は、天正十八年(一五九〇年)、江戸城に入った徳川家康の命により、千景景の行徳までの塩の船路として、道三堀・小名木川と同時に開削されました。寛永六年(一六二九年)には、三角渡り(現在の三角橋)から東側が新たに開削され、全体が新川と呼ばれるようになりました。以来、新川は江戸市中に様々な物資を運ぶ水路、行徳の塩を運ぶ「塩の道」として多くの人に利用されてきました。また、沿川には味噌や醤油を売る店や料理店などが立ち並び賑わいを見せていました。

江戸時代から明治・大正に至るまで東日本からの様々な物資を運び、客船が行きかう重要な水路として発展し、地域の人々の生活に深く関わってきました。しかし、昭和に入り荒川放水路が完成すると、新川は東西の水門で閉鎖し、船の通航も行われなくなりました。さらに、高度経済成長期には、地下水の汲み上げによる地盤沈下により、新川との間に何回も嵩上げされた高い護岸が整備され、人々の生活から遠い存在になってしまいました。

## 新川千本桜

平成十九年四月から、新川の両岸の遊歩道に桜を植樹し、「江戸情緒あふれる街並み」として整備する「新川千本桜計画」を始めました。新川の全長約三キロメートルの両岸に桜を植え、新しい桜の名所とし、個々と賑わいのある街の創出のため江戸情緒あふれる川辺づくりや、南北地域の和が層層広がるよう人道橋並びに広場橋の架設など、歴史や文化を継承する空間を創出しました。



『名所江戸百景 中川口』歌川広重  
手前が小名木川で、左下に中川番所の建物や石段が描かれています。中央を左から右に中川が流れ、その奥が新川です。江戸時代から昭和頃まで、水運の動脈でした。この絵にも材木筏や船の通行の盛んであった様子が描かれています。  
『名所江戸百景 中川口』国立国会図書館デジタルコレクション蔵

## 凡例

- 現在地 You are here
- 橋(車道) bridge
- 人道橋 wooden bridge for pedestrian
- 広場橋 large wooden bridge with pedestrian space
- 手洗所 public toilet
- 車いす用手洗所 toilet for wheelchair

